

三鷹市立中原小学校 令和5年度【理】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	<p>【成果】 ○実験器具の扱い方や注意することについて繰り返して指導することで理解を深めることができた。また、自然の動植物に触れる機会が増え、成長の仕方を身近に感じられた。</p> <p>【課題】 ○体験活動を意欲的に行うことができるが、ふり返りや自己の気づきに結びつかないことがある。 ○生活体験を想起しながら予想を立てる力が十分に身に付いていない児童がいる。</p>	<p>【現状】 ○自然の事物・現象の違いに気付いたり比較しようとする児童が多い。 ○実験や観察の結果を整理したり書き表したりすることを丁寧に取り組む児童が増えてきた。</p> <p>【課題】 ①実験や観察の結果から、必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることができる児童と、できない児童との差がある。 ②予想や考察を自分の言葉でまとめることが難しい。</p>	
第4学年	<p>【成果】 ○見通しをもって実験や観察を丁寧に行える児童が多い。振り返りでは、新しい疑問に繋がる内容が増えてきた。</p> <p>【課題】 ○実験や観察は意欲的に行うが、その結果から考えることが苦手な児童がいる。 また、学んだことと生活体験との結び付きを広げていきたい。</p>	<p>【現状】 ○実験については、とても意欲的な児童が多い。 ○実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて考えられる児童が増えてきた。</p> <p>【課題】 ①理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 ②実験結果から考察、推論することには課題がある。</p>	
第5学年	<p>【成果】 ○予想を立てて説明できる児童が増えてきた。その予想をもとに実験の条件や見通しを立てることができるようになってきた。</p> <p>【課題】 ○個々の考えを深めるために実験結果を交流したが、考察へのつながりを深める場面に課題が残る。</p>	<p>【現状】 ○実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることは身に付いてきた。</p> <p>【課題】 ①観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 ②理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 ③実験結果から考察、推論することに課題がある。</p>	
第6学年	<p>【成果】 ○実験の目的を踏まえて、根拠をもって予想を立て結果をまとめる力が伸びてきた。</p> <p>【課題】 ○振り返りの場面では、新たな疑問やさらに調べたいことに注目し、発展的な視点を広げていきたい。</p>	<p>【課題】 ①適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 ②理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 ③実験結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ることはできるが、考察・推論することには課題がある。</p>	